



独立行政法人
都市再生機構
理事長 中島 正弘

「まちのたね」への思いと沼津市のまちづくり

「まちのたね」を地方都市のまちづくりにつながる場に育てていきたい

市制100周年、鉄道高架事業が動き出し、ヒト中心のまちづくりを推進



沼津市長
頼重 秀一 氏

本日、「まちのたね」がオープンし、市制100周年の沼津市が第1号として出展されました。URの中島理事長と沼津市の頼重市長に、「まちのたね」や都市再生の取り組みについて伺います。まず、なぜURが「まちのたね」をオープンするに至ったのか、背景を教えてください。

中島 URは全国の地方都市でまちづくりの支援を進めていますが、その中で、まちをPRして観光客を呼びたい、人口を増やしたいという地方都市共通の課題がありました。その課題解決のため何かできないのかと考え、「地方と団地をつなぐプロジェクト」と称し、UR団地のイベントの際に、市町にまちのPRや特産品を販売していただく取り組みを始め、ここ数年展開してきました。そしてその取り組みを続ける中で、常設施設としてできないかと考えるようになったところ、名古屋の栄地下街にあるUR賃貸ショップ移転の計画があり、それに併設するかたちでこの常設施設「まちのたね」をオープンすることにしました。出展第1号は、中部支社管内の市町をということで、市制100周年の沼津市さんにお声がけしました。市長、市制100周年おめでとうございます。

頼重 ありがとうございます。
「まちのたね」オープンにあたり、率直な感想をお聞かせください。

中島 オープンできてよかったという思いもある一方、まだスタート地点に立ったばかりという気持ちです。気持ちを引き締

めて、URの施設ならではの特色を出していき、地方都市のまちづくりにつながる場に育てていきたいと思えます。

沼津市のシティプロモーションの必要性をお聞かせください。

頼重 市にとってシティプロモーションは絶対不可欠だと考えています。全国的な傾向ですが、少子高齢化による人口減少が喫緊の課題です。人が住むということは、まちにとって基本中の基本。沼津市は首都圏に近い地理的優位性がある反面、大学進学や就職により首都圏に若者が流出してしまう。いかにして若者の流出を抑制するかが重要です。また、定住人口だけでなく、観光客、いわゆる交流人口を増やすことも大変重要です。これらの課題解決のためには、沼津の個性や魅力、沼津市に住む・訪れる利便性をしっかり伝えることが大変重要だと考えています。

今後、沼津市の魅力をどのようにPRしていくとお考えですか。

頼重 沼津の魅力は、首都圏への近さ、恵まれた自然環境に温暖な気候、そして自然環境がもたらす多彩な食材です。近年、東京からUターンする方やリノベーションまちづくりに積極的に取り組む方が増えていますが、それにはやはり積極的な情報発信が極めて重要だと考えています。

1700以上もの自治体の中から選ばれるというのは至難の業。その点で、「まちのたね」の出展第1号として出展できたのは大変ありがたい、感謝の気持ちです。

今回、沼津市が「まちのたね」へ出展を

決めた思いをお聞かせください。

頼重 出展の話を持った時、これまであまりPRをして来なかった中部圏に沼津市の取り組みをPRする絶好のチャンスととらえました。今年市制施行100周年で、そのコンセプトが「次の100年に向けた新たな一歩を強かに踏み出す」ということで、出展させていただくなら第1号でやりたいと職員も盛り上がりまして、お願いをさせていただきました。

実際「まちのたね」をご覧になっていかがでしたか。

頼重 1日3万の人通りがあり、名古屋市の中心である栄で大勢の方にお越しいただくチャンスがある場所。多くの来客を期待しています。これまで物産販売とPRを同時に行う機会がなかったのですが、ここは大型モニターや展示する機材がしっかりと整っており、物産販売とPRの両方ができて大変ありがたいです。今回の出展でどんなデータが得られるか期待しています。

今後、「まちのたね」をどのように育てていくとお考えですか。

中島 短期間で施設をオープンしたため、まずPRをしっかりしていきたい。そして

営業ノウハウの研鑽を積みながら、ただの貸しスペースではなく、地方都市のまちづくりにどうつなげていくかを考えていきたい。さらにゆくゆくは、他の大都市圏でもこのような施設を展開していきたいと考えています。

沼津市が出展された背景に、以前からURが沼津市のまちづくりを支援してきた経緯があるとお聞きしています。まずは、市長のまちづくりに対する思いをお聞かせください。

頼重 私は大学で都市計画やまちづくりを学び、また建設大臣の秘書をやった経験から、インフラやまちづくりにしっかり取り組みたいという強い思いがありました。現在、市で取り組んでいる沼津駅周辺総合整備事業の主要事業である鉄道高架事業は、この30年くらい停滞状況でしたが、ようやく今年の3月30日、関係者間で工事協定を締結することができました。

一方、この間にまちづくりに対する考え方も大きく変わりました。モータリゼーション時代の車中心の考え方から、ヒトにとって快適な空間を中心市街地に創設するという考え方に切り替わり、ヒト中心のまちづくりを本格的に進めることができる

ようになりました。

また、駅前の商業施設が徐々に撤退し、まちの中心性が薄れ、市民の皆様には大変な停滞感をもたらしていましたが、鉄道高架事業を本格的に進める状況になり、まちなかの建物更新という流れも生まれてきています。行政だけでなく官民一体となってまちづくりを進めていく流れができ始めたという状況です。このチャンスを絶対逃さず、周辺地域に住んでいる方や沼津市を訪れていただく方にも、安心安全に快適に過ごしていただけるまちなか空間を作りたいと考えています。

市制100周年にまちづくりが進みだすというのは素晴らしいですね。

頼重 まるで狙ったかのように100周年のこのタイミングで、様々な事業が進みだし、奇跡としかいいようのない状況です。市民の皆様や事業者の方々にも、まちづくりに対する期待が高まっていると感じています。

これまでのURのまちづくり支援に対する感想をお聞かせください。

頼重 感謝しかありません。URには沼津駅北口の特定再開発事業を施行いただき、その後「まちづくり推進における連携に関する基本協定」を結び、より一体となってまちづくりを進める関係が構築できました。合わせてURに取得いただいた駅前の西武百貨店の本館跡地は、市が今後駅周辺のまちづくり事業を展開していくうえで、の種地としての活用が考えられますが、今回の「まちのたね」同様、既に駅前にタネ

をまいていただいた状況となっています。

この他、本市の「中心市街地まちづくり戦略」の策定や、同戦略で目指すまちの実現に向け、公共空間を有効活用し、まちなかに快適な空間を創り出すための社会実験「OPEN NUMAZU」においても、URに相当な支援をいただいています。

行政だけの知見では難しいところ、全国で事業を展開されているURの支援により、他地域に自慢できる様々な事業が展開できています。今後も真剣にまちの再生、そして、静岡県東部地域の拠点都市としての意気込みをもって取り組んでいきます。

引き続きURにご支援いただき、市民の皆様にもわかりやすく示しながら、納得いただけるまちづくりを進めていきたいと考えています。どうぞ宜しくお願いします。

市長のお話に対する思いをお聞かせください。

中島 市長は、しっかりしたまちづくりのビジョンをお持ちという印象を受けました。我々は現場で様々な研鑽や経験を積んできましたが、個々の職員が必ずしも何でも知見があるわけではなく、グループ全体の総力によるものです。その総力をより高めていき、URとして何ができるのかを考え、特に地方に携わる職員一人一人が謙虚な気持ちで、自分を磨き一緒に学ぶ姿勢で、URにしかできないことに取り組んでいきたいと思っています。

沼津市はしっかりとした体制と一緒に取り組んでいただいている自治体。こちらこそ引き続き宜しくお願いします。

